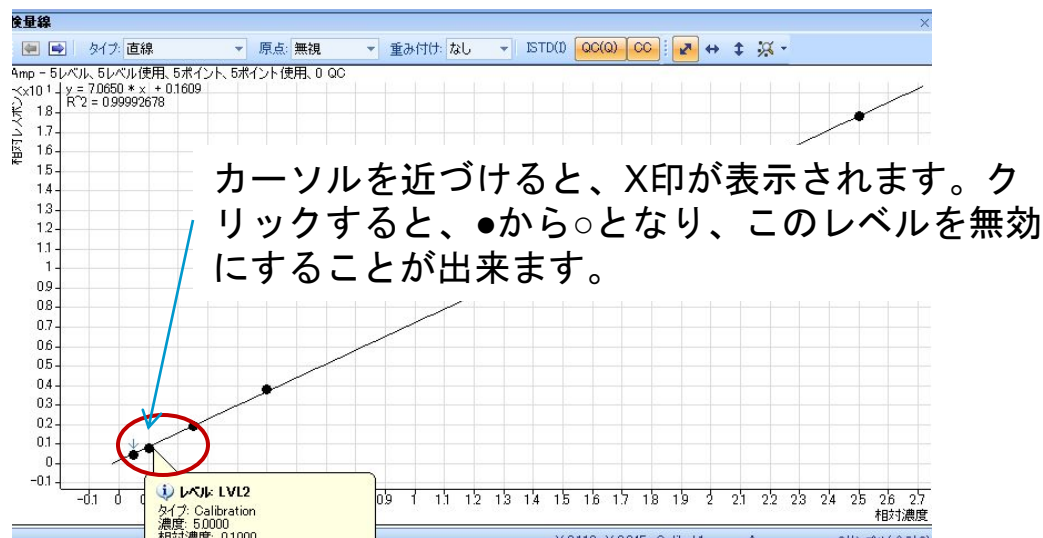


レベル数の異なる検量線を作成する方法

化合物A,Bは5点の検量線、化合物C,Dについては3点の検量線とする方法について説明します。

レベル数を減らす対象化合物がごく少数の場合、5点の検量線を作成しAnalyze Batch（バッチ処理）を行った後、検量線画面上で不要なレベルをクリックし削除することが可能です。しかし対象化合物が多数になる場合、操作が煩雑になります。



この場合、以下の手順で行います。

- ・ A,B同様に5点の検量線を作成しバッチ処理まで実施
- ・ メソッド編集の濃度設定で、化合物Cの不要なレベルを無効とし、Dへコピーする
- ・ 定量メソッドを保存
- ・ バッチ処理を再度実施

① メソッド編集に入り、メソッド設定タスクの「濃度の設定」をクリックします。

メソッド設定タスク(M)

- MRM化合物の設定(M)
- リテンションタイムの設定(R)
- ISTDの設定(I)
- 濃度の設定(O)**
- クオリファイアの設定(Q)
- 検量線の設定(A)
- グローバル設定(G)

定量対象化合物

化合物名	TS	トランジション	スキャン	タイプ
Amp	1	136.2 -> 91.4	MRM	ターゲット

クオリファイア

プリカーサイオン	プロダクトイオン	トランジション	相対レスポンス	許容範囲
136.2	119.4	136.2 -> 119.4	26.5	20.0

キャリブレーション

レベル	濃度	有効
LVL1	0.5000	
LVL2		
LVL3		
LVL4		
LVL5		

列の追加/削除(N)...

列の追加(A)

列の削除(M)

② キャリブレーションの欄を右クリックし、列の追加/削除をクリックします。

③ 「有効」を追加します。

列

列の選択元(E):
▼ キャリブレーション

使用可能な列(U):

- RF
- キャリブレーションパス
- タイプ
- レスポンス
- レベルRSD
- 平均カウント
- 有効**

順番にこれらの列を表示(S):

レベル
濃度

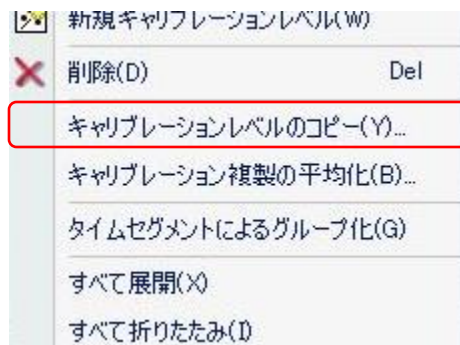
追加(A) ->
<- 削除(R)
すべて追加(L) ->>
<<- すべて削除(M)

上へ移動(U) 下へ移動(D)

OK リセット(R) デフォルト(D) キャンセル

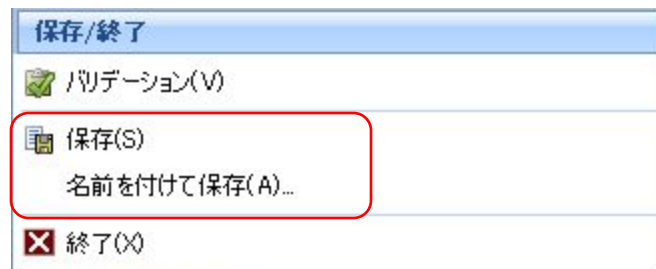
④ 不要なレベルのレ点を外します。

キャリブレーション		
レベル	濃度	有効
LVL1	25000	<input type="checkbox"/>
LVL2	50000	<input type="checkbox"/>
LVL3	125000	<input checked="" type="checkbox"/>
LVL4	250000	<input checked="" type="checkbox"/>
LVL5	1250000	<input checked="" type="checkbox"/>



⑤ 再度右クリックをし、「キャリブレーションレベルのコピー」をクリックします。

⑥ 同じレベル数にする化合物を選択して、OKをクリックします。



⑦ 定量メソッドを保存し、編集画面を終了します。

⑧ Analyze Batch (バッチ処理) を実施します。

